

2021年6月18日(金)
秋田大学教育文化学部附属小学校
令和3年度公開研究協議会(オンライン)

初等教育における『選択・決定』と『省察』の在り方

岡田 涼
(香川大学教育学部)

okada.ryo@kagawa-u.ac.jp
ご質問・ご感想等ありましたらお気軽にご連絡ください。

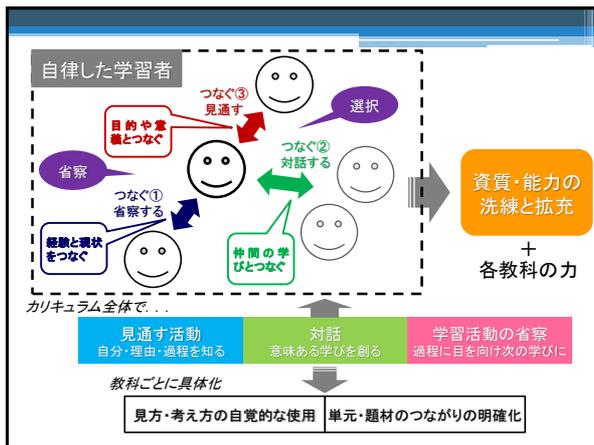
1. 授業について

2. 秋附小の研究の魅力

秋附小の研究

『自律した学習者を育てる—学びをつなぎ資質・能力を高める—』

キーワード: 自律、自己選択・自己決定、省察、つなぐ、対話



秋附小の研究の魅力

- ①自律した学習者像の豊かさ
- ②選択・決定の具体化
- ③省察の精緻化

(1) 自律した学習者

自分自身の学びを省察し、自ら設定した目標に向け必要な学習内容や方法を決定し、学び続けていく学習者

- ・学習の内容、方法、目的の自覚
- ・状況に応じた効果的な学習
- ・自ら学び続ける

「令和2年度の実践・研究について」

自律的な学習者の捉え①

≡自己調整学習

自己調整学習

学習者が、メタ認知、動機づけ、行動において、自分自身の学習過程に能動的に関与している。

(Zimmerman, 1989)

自己調整学習の視点では...

- 意欲、メタ認知、方略が活発
- 「自分で」学習のサイクルをまわす

そのために

- ①少しずつサポートを外すことを重視
- ②方略のレパートリーをもたせる

自律的な学習者の捉え②

≡自律的動機づけ

自己決定理論では...

内発的動機づけ

+

“自律的な”外発的動機づけ

⇒自律的な動機づけ

自律的動機づけの視点では...

- 興味をもって取り組む
- 重要性や価値による動機づけ

そのために

- ①(外発的)動機づけの自律化を目指す
- ②心理的欲求を満たす環境を設定

自律的な学習者の捉え③

≡エンゲージメント

エンゲージメント

課題に没頭して取り組む状態。

- 持続的に努力している【行動】
- 興味や楽しさを感じている【感情】
- 目的をもって集中している【認知】
- 学習環境に働きかける【エージェンティック】

Reeve (2013)

エンゲージメントの視点では...

- 行動、感情、認知で全体的に入り込む
- 学習環境自体を変えていこうとする

そのために

- ①学習者が環境にアプローチできる
- ②没頭できるような余地を作る

	自律的な学習者	そのために
自己調整学習	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲、メタ認知、方略が活発 ・「自分で」学習のサイクルをまわす 	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつサポートを外すことを重視 ・方略のレパートリーをもたせる
自律的動機づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもって取り組む ・重要性や価値による動機づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・(外発的)動機づけの自律化を目指す ・心理的欲求を満たす環境を設定
エンゲージメント	<ul style="list-style-type: none"> ・行動、感情、認知で全体的に入り込む ・学習環境自体を変えていこうとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者が環境にアプローチできる ・没頭できるような余地を作る

(2) 選択・決定

「主体性は、子ども自ら選択し、決定する場面において自ら学びをコントロールしていることや学びの責任を自覚することにより、動機づけが図られ更に高揚していく」

「令和3年度 本校の実践・研究について」

秋附小での選択の方針

- ・各段階の区切り、各過程で
- ・選択肢に優劣をつけない
- ・教科や発達段階に応じた選択肢
- ・内容、方法、目的を選ぶ

内発的動機づけに対する選択の効果のメタ分析結果
(Patallら, 2008)

	効果量	95%信頼区間
対象者		
大人	0.31	[0.21, 0.40]
子ども	0.55	[0.28, 0.81]
選択の回数		
1回1つ選択	0.23	[0.12, 0.33]
1回複数選択	0.25	[-0.02, 0.53]
複数回の選択	0.58	[0.40, 0.77]

※効果量は選択ありとなしの差を示す指標。

選択の難しさ

- 選択肢の数の問題
(Iyengar & Lepper, 2000)
- 文化による効果の違い
(Iyengar & Lepper, 1999)
- 選択による心的コストの問題
(Baumeisterら, 1998)

選択を考える視点

- 本人が選びたいものか？
- 選ぶことで利点があるか？
- 選ぶのが困難ではないか？
- 選ばされた感じはないか？

⇒ 場合によっては逆効果

(3) 省察

学ぶ内容や過程、用いる方法を自問すること。

「令和2年度の実践・研究について」

- ・振り返り、見通し、比較などを含む
- ・自律的な学習の不可欠な要素
- ・学びの教訓を引き出す

秋附小での省察

- 「見方・考え方」の基礎
- いつ、何について、どのようにで精緻化
- 小さな省察と立ち止まる省察
- 対話による協働的な省察

教訓帰納(市川, 1993)

自分の学習を振り返って学んだことを教訓として引き出すこと。

「解く前に問題をよく読んだ方がよい」
「単位を考えないと計算に失敗する」
「違うところを比べながら聞くとよい」

⇒応用できる知識として残す

メタ認知支援の枠組み

- (a) 学習を進めるうえでメタ認知が重要なはたらきをしていることに気付かせる。
- (b) メタ認知の方略を意図的に教え、具体的な学習課題と関連づけて練習させる。
- (c) 自己質問や自己説明をさせることで、自分の理解に目を向けさせる。
- (d) ヒントや質問を通して、自分の思考過程に目を向けさせる。
- (e) 思考や理解の状態を視覚的に把握できるようにする。
- (f) 協同的な活動のなかで、お互いの考え方や理解の仕方に目を向けさせる。
- (g) 学習に対する動機づけを促す。

岡田(2021)

省察を促すために...

- 省察する力があるか？
- 省察することが具体的か？
- 省察する必要性があるか？
- 最初の時点で自己評価ができていたか？

3. 秋附小に期待すること

今後の研究に期待すること

- ① 選択と省察のガイドライン
- ② 成果の数量的な評価
- ③ これまでとこれからの橋渡し

① 選択と省察のガイドライン

研究全体の枠組みとして選択と省察を重視



各教科・単元で具体化(到達点)



“私の授業”で選択・省察を取り入れるためのガイドライン

② 成果の数量的な評価

研究の成果が豊富な子どもの姿として示されている。

- ・自己決定する姿
- ・学びを省察する姿
- ・仲間と協働する姿

⇒ 一般的・平均的・全体的にはどんな変化が？

③ これまでとこれからの橋渡し

教育政策や動向の大きな転換がある時期。

内容	→ コンピテンシー
指導の理論	→ 学習の理論
行動主義・認知主義的な学習観	→ 状況論的・構成主義的な学習観
一斉	→ 個別

引用文献

- Baumeister, R. F., Bratslavsky, E., Muraven, M., & Tice, D. M. (1998). Ego depletion: Is the active self a limited resource? *Journal of Personality and Social Psychology*, 74, 1252-1265.
- 市川伸一 (編著) (1993). 学習を支える認知カウンセリング: 心理学と教育の新たな視点 プレーン出版
- Iyengar, S. S., & Lepper, M. R. (1999). Rethinking the value of choice: A cultural perspective on intrinsic motivation. *Journal of Personality and Social Psychology*, 76, 349-366.
- Iyengar, S. S., & Lepper, M. R. (2000). When choice is demotivating: Can one desire too much of a good thing? *Journal of Personality and Social Psychology*, 79, 995-1006.
- 岡田 浩 (2021). 授業場面におけるメタ認知支援に関する研究の概観 香川大学実証総合研究
- Patal, E. A., Cooper, H., & Robinson, J. C. (2008). The effects of choice on intrinsic motivation and related outcomes: A meta-analysis of research findings. *Psychological Bulletin*, 134, 270-300.
- Reeve, J. (2013). How students create motivationally supportive learning environments for themselves: The concept of agentic engagement. *Journal of Educational Psychology*, 105, 579-595.
- Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2000). Self-determination theory and the facilitation of intrinsic motivation, social development, and well-being. *American psychologist*, 55, 68-78.
- 三宮真智子 (編著) (2008). メタ認知: 学習力を支える高次認知機能 北大路書房
- Schunk, D. H. (1998). Teaching elementary students to self-regulate practice of mathematical skills with modeling. In D. H. Schunk & B. J. Zimmerman (Eds.), *Self-regulated learning: From teaching to self-reflective practice* (pp.137-159). New York: Guilford Press.
- 白井 俊 (2020). OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来: エージェント、資質・能力とカリキュラム ミネルヴァ書房
- Zimmerman, B. J. (1989). A social cognitive view of self-regulated academic learning. *Journal of Educational Psychology*, 81, 329-339.
- Zimmerman, B. J. (2000). Attaining of self-regulation: A social cognitive perspective. In M. Boekaerts, P. Pintrich, & M. Zeidner (Eds.), *Handbook of self-regulation* (pp.13-39). Orlando, FL: Academic Press.